

教 育 研 究 業 績 書		
令和7年 4月 1日		
氏 名 若 林 一 花 印		
研 究 分 野	研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド	
食生活学	食と栄養	
教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項		
事 項	年 月 日	概 要
1 教育方法の実践例 ①調理学実習Ⅰ・Ⅱ	令和5年4月～	新ベターホームのお料理一年生（ベターホーム協会）、調理のためのベーシックデータ（女子栄養大学出版社）を使用し、調理の基本操作とバランスのとれた献立の実習を実施。
②給食管理実習Ⅰ・Ⅱ	令和5年4月～	給食経営管理実習ワークブック（みらい）を使用し、参考資料の作成と大量調理の実践実習を実施。
③給食管理実習Ⅲ （校外実習）	令和5年4月～	実習依頼、実習事前打ち合わせ、実習期間中の訪問等に関する書類作成、充実した実習が行えるように設定。
④フードコーディネイト	令和5年4月～ 令和6年3月	新・フードコーディネーター教本3級資格（日本フードコーディネーター協会）を使用し、参考資料の作成を実施。
⑤基礎演習	令和5年4月～9月	化学・数学の基礎事項について、プリントを作成して講義を実施。
⑥製菓の理論と実習	令和6年4月～	製菓づくりの基礎知識および技術についての資料を作成し実施。
2 作成した教科書、教材 なし		
3 教育上の能力に関する大学 等の評価 なし		
4 実務の経験を有する者につ いての特記事項 ① 食と科学演習 実習助手	平成22年10月 ～1月	和歌山県立医科大学保健看護学部 「食の科学演習」についての実習助手を務めた。計13回

② 子育て支援員研修 講師	平成 27 年 12 月	平成 27 年度和歌山大学地域連携・生涯学習センター主催である「子育て支援員研修」についての専門研修（地域保育コース）の受講生を対象に、「乳幼児の食事と栄養」の分野の講師を務めた。
③ 平成 30 年度全国少年柔道競技者育成事業（近畿地区）	平成 30 年 9 月	平成 30 年全国少年柔道競技者育成事業、第 13 回近畿地区全国少年柔道錬成会にて栄養指導の講義について資料作成および現地同行。
④ 令和 5 年度保育士等キャリアアップ研修 講師 令和 6 年度保育士等キャリアアップ研修 講師	令和 6 年 1 月 27 日 令和 7 年 1 月 25 日	食育分野の「食と子育て、食育計画の作成と活用」の一部である「食事摂取基準と献立作成・調理の基本」部分の講師を務めた。
5 その他 ① 第 45 回全国高等学校総合文化祭（紀の国わかやま総文 2021）	令和 2 年 10 月 （開催日： 2021.07.31～ 08.06）	全国高等学校総合文化祭において供されるおもてなし弁当について高校生が自ら企画したものを本学が栄養士養成校の立場から安全面と栄養面、さらにコストやデザインについての指導を託された。各高校から推薦された弁当 5 タイプについて栄養安全面では食物栄養専攻が対応、コストやデザイン面では生活文化専攻と保育科が対応した。なお、今回の依頼先は和歌山県教育庁学校教育局県立学校教育課と近畿ツーリスト、並びに J T B からの要請によるものである。

②橋本市経済推進部農林振興課からの「高野山麓精進野菜に関する野菜の普及促進」の依頼と幸南食糧株式会社による精進粥の作成について産官学連携による共同開発	令和3年10月	高野産麓精進野菜を用いた食育のための粥と高野精進粥の開発における橋本市役所・幸南食糧株式会社間での産学官取組。食物栄養専攻、保育科の共同卒研により、和歌山県産農産物の普及や郷土食材をはじめとする食育の普及に取組を行った。 西出充徳、野志昌弘、堀江大輔、五木田祐里、<u>若林一花</u>
③和歌山電鐵貴志川線の普及、並びに周辺地域の活性化として地域産物を使用した「タケノコごろごろコロッケ」試食会のボランティア活動を伊太祁曽駅構内で実施。	令和4年5月	令和4年5月28日和歌山電鐵貴志川線の利用者減少や地域の活性化を目指すため、伊太祁曽駅周辺の名産品物を使って筒コロッケ（限定120個）の試食会を行った。和歌山電鐵との協議により開催となった。このボランティア活動では有志の協力と、ボランティア活動に参加した全学科専攻の学生達により地域への魅力を宣伝することが出来た。また、活動については朝日新聞でも記事に取上げられた。 西出充徳、岡井明美、森岡美帆、野志昌弘、<u>若林一花</u>、五木田祐里、堀江大輔、児嶋啓介、学生スタッフ29名。
④高血圧ゼロのまちプロジェクトに参加 健康教室②「減塩料理教室」で講演 主催：北山村役場 健康推進課	令和4年7月	和歌山県北山村では高齢化と過疎化が進む中、村民の高血圧も問題となっている。「高血圧ゼロのまちプロジェクト」を目指し村民の健康維持を推進、食と健康面での減塩食生活の指導について依頼を受け取組む。地元食材である「じゃばら」を用いた減塩の工夫や長期保存が可能な減塩食品について令和4年7月29日に講演と実技指導を行った。 西出充徳、野志昌弘、<u>若林一花</u>、五木田祐里、堀江大輔
⑤大学生等の健康づくり推進事業「若者の健康のためのハンドブック」わかやま・わかもの・わかちあい作成	令和7年3月7日	県からの受託事業「大学生等の健康づくり推進事業」の一環で、ハンドブック作成にあたり学生を支援して編集を行った。 ハンドブックには、大学生の健康意識の実態や活動内容を紹介、不足する野菜を補える簡単レシピ等を掲載した。2,000冊を作成し、若者のヘルスリテラシー向上の一助となることを目的に県内の大学・専門学校へ配布を行った。 岡井明美、野志昌弘、堀江大輔、<u>若林一花</u>、大須賀美里、中尾春菜、藤田陽平

職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項		
事 項	年 月 日	概 要
1 資格、免許 ① 栄養士免許 ② 医療費所実務士 ③ 介護保険実務士 ④ 管理栄養士免許 ⑤ フードコーディネーター3 級	平成 17 年 3 月 平成 17 年 3 月 平成 17 年 3 月 平成 26 年 6 月 令和 5 年 2 月	栄養士名簿登録番号 第 6601 号 管理栄養士名簿登録番号 第 191281 号 第 086023 号
2 特許等 ①		特記事項なし
3 実務の経験を有する者についての特記事項 ①実験実習助手実務歴	平成 17 年度 平成 18 年度 平成 19 年度 平成 20 年度 平成 21 年度 平成 22 年度 平成 23 年度 平成 24 年度 平成 25 年度	栄養指導論実習Ⅰ 生化学実験 解剖生理学実験 食品学総論実験 食品学各論実験 栄養指導論実習Ⅰ 栄養指導論実習Ⅱ 生化学実験 解剖生理学実験 食品学総論実験 食品学各論実験 栄養指導論実習Ⅰ 栄養指導論実習Ⅱ 生化学実験 解剖生理学実験 栄養指導論実習Ⅰ 栄養指導論実習Ⅱ 生化学実験 解剖生理学実験 栄養指導論実習Ⅰ 栄養指導論実習Ⅱ 生化学実験 栄養指導論実習Ⅰ 栄養指導論実習Ⅱ 調理学実習Ⅰ 生化学実験 栄養指導論実習Ⅰ 栄養指導論実習Ⅱ 生化学実験 栄養指導論実習Ⅰ 栄養指導論実習Ⅱ 生化学実験 栄養指導論実習Ⅰ

		栄養指導論実習Ⅱ 栄養学各論実習
	平成 26 年度	栄養指導論実習Ⅰ 栄養指導論実習Ⅱ 栄養学各論実習 生化学実験 食品学総論実験
	平成 27 年度	栄養指導論実習Ⅱ 栄養学各論実習 生化学実験 食品学総論実験
	平成 28 年度	栄養指導論実習Ⅰ 栄養指導論実習Ⅱ 栄養学各論実習 臨床栄養学実習Ⅱ 食品学総論実験
	平成 29 年度	栄養指導論実習Ⅰ 栄養指導論実習Ⅱ 栄養学各論実習 臨床栄養学実習Ⅰ 給食管理実習Ⅰ フードコーディネイト
	平成 30 年度	栄養指導論実習Ⅰ 栄養指導論実習Ⅱ 栄養学各論実習 解剖生理学実験
	平成 31 年度	栄養指導論実習Ⅰ 栄養指導論実習Ⅱ 栄養学各論実習 調理学実習Ⅱ 製菓実習
	令和 2 年	栄養教育論実習Ⅰ 栄養教育論実習Ⅱ 栄養学各論実習 調理学実習Ⅱ 給食管理実習Ⅱ 食品学各論実験
	令和 3 年度	栄養教育論実習Ⅱ 栄養学各論実習 臨床栄養学実習Ⅰ 臨床栄養学実習Ⅱ 給食管理実習Ⅰ 食品衛生学実験
	令和 4 年度	栄養教育論実習Ⅰ 栄養教育論実習Ⅱ 栄養学各論実習 臨床栄養学実習Ⅰ

②和歌山の味レシピ集原案作成 業務	平成 25 年度	臨床栄養学実習Ⅱ 生理・生化学実験 食品衛生学実験 フードコーディネイト 2015 紀の国わかやま国体・紀の国わかやま大会 の開催につれて、和歌山の食材・郷土料理等を使用 したレシピ集の原案作成のために、レシピの考案、 試作、試食会等を務めた。 (アスリートのためのきいちゃんレシピ)
------------------------------	-----------------	--

③大学コンソーシアム授業 「私たちが考える紀の国わか やま国体・紀の国わかやま大 会レシピ」	平成 26 年度	2015 紀の国わかやま国体・紀の国わかやま大会 につれて和歌山の食材・郷土料理等を使用したレ シピ集の作成のため、学生指導等に努めた。 通年全 6 回授業、現地調査、試食会のための資 料作成及び学生指導 等
④高等教育機関コンソーシアム 和歌山、平成 29 年度大学等地 域貢献推進事業 紀州金山寺味噌の衛生的製 造・出荷とその普及	平成 29 年度	紀州金山寺味噌の衛生的製造・出荷とその普及 紀州金山寺味噌の原材料から洗浄、塩漬、熟 成、出荷、流通に及ぶ各工程中の微生物叢の変 遷と微生物制御方法を明確にし、HACCP に対応で きる衛生管理法の基盤を築く。また、衛生管理 した金山寺味噌の普及のために、食育活動を通 して、学校給食への利用方法を明らかにする。 学生・若年層主婦を対象に食文化としての金山 寺味噌と、その衛生的製造についての認識調査 及び集計。 和歌山県食文化の視点からの普及調査を担当。
⑤コンソーシアム和歌山 「和歌山特産の野菜と果物で 健康寿命を延ばそうプロジェ クト」	令和 6 年 9 月 21 日 10 月 12 日 11 月 9 日 11 月 30 日 令和 7 年 1 月 18 日	紀の川市と JA 紀の里の協力の基、和歌山県民の 野菜と果物の摂取量の現状と生活習慣病の現状 を理解する。全 5 回授業、現地調査、リーフレッ ト作成およびレシピ作成・学生指導 等
4 その他		
①地域指向教育研究推奨金制 度による和歌山信愛女子短期 大学きょう育の和センター教 育研究助成	平成 28 年度	「和歌山県産の温州みかんジュースを使った若 年層に対する研究事象の関わりについて」 温州みかんジュースに含まれる成分がもたらす 肌への影響にどのような効果があるのか、本学 学生を対象に調査を実施し検討した。 研究代表者：若林一花 共同研究者：西出充徳、堺みどり
②地域指向教育研究奨励金制 度による和歌山信愛女子短期 大学きょう育の和センター教 育研究助成	令和 4 年度	「北山村の農産物を利用した成人病の改善、及 び加工品の開発について」 北山村村民の健康増進と復興発展について特産 じゃばらを用いた知見のおよび地域産業復興の 取り組み。 研究代表者：西出充徳 共同研究者：岡井明美、森岡美帆、野志昌弘 堀江大輔、五木田祐里、若林一花
③わかやま食と健康フェア	平成 27 年度 平成 28 年度	わかやま食と健康フェア 2015 わかやま食と健康フェア 2016 ブース出展のための学生指導および引率
④めっ家 DE よい食フェスタ	平成 28 年度	ブース出展のための学生指導および弁当コンテ スト学生表彰者の引率
⑤日本栄養士会 栄養ワンダー2019	令和元年 7 月 8 日	本学オープンキャンパス来場者（高校生・保護 者）をと本学全学科の学生および教職員を対象 に「栄養と健康」に関するプレゼンテーション

若林 一花

栄養ワンダー2021 栄養ワンダー2022 栄養ワンダー2023 栄養ワンダー2024	令和3年7月8日 令和4年7月12日 令和5年7月13日 令和6年7月11日、25日、26日	を実施。 「栄養の整理整頓」というテーマで、クラス毎に栄養教育を実施。 「自分のために、地球のためにサステナブルに食べよう」というテーマで、クラス毎に栄養教育を実施。 「間食のすすめ」というテーマで、クラス毎に栄養教育を実施。 「口と栄養の“おいしい”関係」をテーマに実施。クラス毎に栄養教育実施
「大学生等の健康づくり推進事業」における大学祭・県民公開講座等での啓発活動（和歌山信愛女子短期大学・和歌山大学・和歌山信愛大学・和歌山医大薬学部）	令和6年9月～令和7年3月 イベント： 令和6年10月26日 令和6年11月10日 令和6年11月17日 令和6年11月30日 令和6年12月7日 令和7年2月8日	学生による活動チームを結成し、大学生等の若い世代の健康意識向上を目的に、和歌山県の健康課題の学習や自身の生活習慣の振り返り、生活習慣病予防に必要な知識獲得の支援を行った。学生によるイベントでの啓発活動やフォーラム開催、レシピ・アンケート作成の支援を行った。 岡井明美、野志昌弘、堀江大輔、<u>若林一花</u>、大須賀美里、中尾春菜
親子で楽しむ 食育のおはなし 食育体験の企画と運営（和歌山城ホール）	令和7年3月2日	小学1年生から3年生と保護者を対象に、スタンプラリー形式で食育体験、食べ物のお話やクイズのコーナーを親子で体験できる企画の立案と運営 岡井明美、野志昌弘、堀江大輔、<u>若林一花</u>、中尾春菜、大須賀美里
箕島高校「地球市民プロジェクト」での授業（有田市）	令和6年9月11日 令和9月25日 令和11日13日 令和12日10日 令和7年1月18日	箕島高校が取り組んでいる「地球市民プロジェクト」で、地域の食材を生かした災害食（レトルト食品）の開発を目的に、災害時の栄養管理、献立作りの基本等についての授業を行った。 岡井明美、野志昌弘、<u>若林一花</u>、堀江大輔、中尾春菜、大須賀美里
「もっと健康ウォーキング」における骨密度測定受診者に対する栄養指導	令和7年2月1日	和歌山県福祉保健部健康局健康推進課からの依頼 和歌山県栄養士会より派遣され「もっと健康ウォーキング」における骨密度測定受診者に対する栄養指導
「スーパーでの食育イベント」における来場者の食事指導	令和7年2月22日	和歌山県果樹園芸課からの依頼 和歌山県栄養士会より派遣され「スーパーでの食育イベント」における来場者の食事指導

研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書) 1 アスリートのためのきいちゃんレシピ	共著	平成26年5月	紀の国わかやま国体・紀の国わかやま大会実行委員会	2015 年紀の国わかやま国体・紀の国わかやま大会に参加する選手・監督等を対象に、スポーツ栄養学に基づく和歌山の食材・郷土料理等を使用したレシピ集の作成。レシピ集作成にあたり、高等教育機関コンソーシアム和歌山にて、授業の一環として料理の現地調査やレシピの考案に取り組み、学生の指導やレシピ集の取りまとめ、県主催の試食会の準備等。レシピ集は和歌山県内の施設、競技団体等に配布された。 A4 判 全 104 項 編者：土井有美子 共著者：月城紗希子、 <u>若林一花</u>
(学術論文) 1 紀南沿岸の海藻‘ヒロメ’に関する研究 1 報 ヒロメ料理の嗜好	共著	平成21年3月	信愛紀要第 49 号 21-24	ヒロメを使った料理を検討する目的で、ヒロメに関するアンケート調査の結果を報告した。アンケート調査結果から、全体では「海藻類をよく食べる」が 38%、男性 43%、女性 34%と男性が高かった。60 歳以上で 55%と高く、20～39 歳が 14%と低く、海藻類の嗜好に年齢差があることが示唆された。今回の結果では、ヒロメを使って「食べてみたい料理」は「しゃぶしゃぶ」が最も高かったことはヒロメの特性が大きく影響したと思われる。ヒロメを使った料理の検討には、食感などのヒロメの特性を活かすことと同時に、料理だけでなく、年代による嗜好を考慮して広範囲な検討の必要性を確認した。 共著者：道上美保、 <u>若林一花</u> 、吉田穰
2 紀南沿岸の海藻‘ヒロメ’に関する研究 2 報 食べてみたい料理について	共著	平成22年3月	信愛紀要第 50 号 13-17	ヒロメを使った新たな料理を検討した。前報のヒロメを「食べてみたい料理」の結果から「しゃぶしゃぶ」、「酢の物」、「サラダ」を取り上げ、味付けも含め、ヒロメの巻きずし、酢の物・サラダに関するアンケート調査を実施した。今後、ヒロメの新しい料理の検討には、特性を活かし、年代や性別の嗜好を考慮して若い年代や女性に好まれるケーキ・クッキーや高年齢層や男性での飯類や麺類などの広範囲な可能性を示唆した。 共著者：道上美保、 <u>若林一花</u> 、吉田穰

3	紀南沿岸の海藻'ヒロメ'に関する研究 3 報 ヒロメの菓子類への利用について	共著	平成23年3月	信愛紀要第51号 13-16	アンケート調査の結果報告とヒロメを使った料理の検討する目的でヒロメの菓子類への利用について、試作した菓子の官能検査の結果は、ケーキ・クッキーではマドレーヌとソフトクッキーの評価が高かった。3 種のヒロメ入りソフトクッキーでは、「練り」「渦巻き・練り」が僅かに高い評価で、「渦巻き」は味・食感が高かったが、生地とヒロメが分かれるため口に残るが多かった。その他の試食結果から、苦味・味が合わないがあげられた。 共著者：道上美保、 <u>若林一花</u> 、吉田穰
4	きいちゃんレシピ集作成について その 1 スポーツ選手のための献立	共著	平成27年3月	信愛紀要第55号 59-65	2015 年、紀の国わかやま国体・紀の国わかやま大会が開催される。大会中、選手・監督等がホテル・宿泊施設を利用するため、その施設の方々には選手に栄養のバランスに配慮した食事のサポートが必要になってくる。スポーツ栄養学に基づいた和歌山の食材・郷土料理等を主に使用した。また衛生面に配慮した献立になるよう検討し、レシピ集を作成した。レシピ集に掲載している朝食・夕食をそれぞれセットメニューとし、3 日分のメニューの栄養学的特徴について述べた。 共著者： <u>若林一花</u> 、月城紗希子、土井有美子
5	和歌山の郷土料理とその伝承	共著	平成27年3月	信愛紀要第55号 67-72	和歌山の郷土料理の現状把握と継承のための方法を探る目的で、学生およびアンケート調査と学生の郷土料理の試食を実施した結果を報告する。すし類と茶がゆは「食べたことがある」が多く、野菜・山菜、もちの郷土料理は「知らない」が多かった。学生と保護者の食歴および学生の茶がゆを「食べたことがある」が他の郷土の食歴に有意な差がみられた。結果をみると、郷土料理は高い年代で「食べたことがある」が多かったが、出身地に大きな差が認められなかった。 共著者：吉田穰、 <u>若林一花</u> 、堺みどり
6	学生の生活・食習慣と食物摂取状況に関する調査	共著	平成28年3月	信愛紀要第57号 81-85	本学学生の入学時に実施した生活・食習慣調査および食物摂取状況調査から、学生のライフスタイルの年次変化と、葉酸摂取量と生活・食習慣および栄養素等・食品群別摂取量の関係を検討した。葉酸が推奨量を摂取している群と未満の群にわけ比較し検討すると、推奨量を摂取している群の栄養素等は食事摂取基準に近

				い値を示した。また、食品群摂取量に関しても多い摂取であった。未満の群は食品群が主食類、肉類は満たしているが、それ以外は少ない結果となった。 共著者：<u>若林一花</u>、西出充徳、吉田穰、堺みどり
7	和歌山県産の温州みかんジュースを使った若年層に対する健康事象の関わりについて	共著	平成29年3月	信愛紀要第57号 81-85 温州みかんジュースに含まれる機能性成分がもたらす、若年層の肌への影響について調査した。肌への影響は測定器を用いて7項目（キメ、シミ、油分、水分、弾力、明度、角質）別に数値化されたデータを基に肌を評価した。調査期間は冬期・夏期に実施し、ジュース飲用者を冬期では二分化して調査した。肌への影響は、夏期にでは「弾力」が温州みかんジュース飲用の方が開始前の状態が保持されるが、対照群では弾力が低下することが顕著にあらわれた。 共著者：<u>若林一花</u>、西出充徳、堺みどり
8	北山村における高血圧予防を目的とした減塩料理教室の取組について	共著	令和6年3月	信愛紀要第65号 45-50 和歌山県東部の東牟婁郡北山村は、全国と比較して高齢者の高血圧患者が多く、健康面で問題を抱えている。北山村役場からの依頼を受けて、北山村の特産品であるジャバラを利用した高血圧予防に関する減塩料理教室に取り組んだことを報告する。 共著者：西出充徳、野志昌弘、堀江大輔、<u>若林一花</u>、五木田祐里
(その他) 「学会発表」				
1	栄養士養成校の学生における学習効果の検討～生活・食習慣の変化～		平成24年9月	第59回 日本栄養改善学会学術総会（名古屋国際会議場） 本学学生は、栄養学をはじめとして、食と健康についての教科を学習するため、学生の入学・卒業時に実施した生活・食習慣調査から2年間の健康行動の変化を検討し、学習効果を評価した。調査項目は、生活習慣16項目、食習慣14項目である。入学時と卒業時の差については、X^2の検定を行った。生活時間の変化では起床時間と就寝時間に変化がみられ、排便習慣、身体活動はまったく変化がみられなかった。食習慣の変化では朝食を食べる割合が減少し、野菜の摂取、偏食などは変化がみられなかった。生活環境の影響を受けやすいものが変化しやすく、排便習慣などの長い間に獲得した習慣は変容しにくいのではないかと思われる。食品の組合せを考える、食事が楽しみ、学生生活への満足感が増加していることは、2年間の学習効果があったと考える。 共同発表者：道上美保、<u>若林一花</u>、堺みどり

				本人担当分：口頭発表者、及びアンケート調査集計、発表資料作成	
2	和歌山県の小学校における地場産物を用いた食育の現状	－	平成30年5月	日本家政学会第70回大会	地域の食文化理解を促す食育教材の開発に向けて、和歌山県内の小学校における食育の現状、特に地場産物の利用状況を把握することを目的とした。県内の小学校240校を対象に、郵送による質問紙調査を行い、156校より回答を得た。調査内容は、食育の実施状況、給食献立における地場産物の利用や、和歌山県の伝統食品である「紀州金山寺味噌」の活用に対する意識等とした。食に関する指導や給食献立における地場産物の利用は「十分」「ある程度」行っていると認識されている割合が高かったが、「学校給食での和歌山産品利用拡大戦略アクションプログラム」が策定されるなど、より一層の利用拡大や指導の充実が求められている。現状では活用事例の少ない紀州金山寺味噌についても一定のニーズは認められて、適切な食育教材の開発や給食献立への導入支援により利用拡大が見込まれる。 共同発表者：山本奈美、神山求実、堺みどり、 <u>若林一花</u> 、泉秀実
3	HACCP管理に向けた紀州金山寺味噌の製造法の検討	－	平成30年11月	日本防菌防黴学会第45回大会	紀州金山寺味噌の原材料の入荷から製品の出荷までの微生物叢の調査と、製造中および貯蔵中の微生物制御業法の検討。微生物との結果と合わせて、味噌部分の表面色も低下したことから、金山寺味噌の貯蔵は、30日を超える場合、保存料の添加よりも室温ではなく定温に貯蔵することが、品質保持の点で重要であることが明らかとなった。 共同発表者：井上あやの、泉秀実、堺みどり、 <u>若林一花</u> 、山本奈美

4	和歌山県の食文化に関する調査 伝統食品の普及について	—	令和1年9月	第 66 回 日本栄養改善学会学術 総会（富山県民・富山 国際会議場）	和歌山県の伝統的な食文化の一つである紀州金山寺味噌の認識調査を、若年層を対象に実施した。その調査結果から食体験の時期や食嗜好などを明らかにし、伝統食品としての理解度や伝承性を検討した。また、伝統食品の衛生的製造の認識調査を行い、HACCP（ハサップ）などの衛生管理法の認知度を知り、今後の若年層への食教育に活用するために検討を行った。若年層を対象に伝統食品の普及には、小学校時代の食体験がその後の嗜好に現れ地場産物の伝統食品との認識が高まわると思われる。また、伝統食品の安全性を認めた製品に対する購買意欲がみとめられた。子どもの頃からの食体験などから伝統食品の伝承性につながると考えられる。 共同発表者：横地一花、堺みどり、山本奈美、泉秀実 本人担当分：示説発表者、及びアンケート調査集計、発表資料作成
5	食育に関する意識調査について（予備調査）	—	令和2年9月	第 67 回 日本栄養改善学会学術 総会（誌上開催）	栄養士免許の取得を目指している食物栄養専攻の学生の食育に関する意識はどのようなものなのか、5 つの重点課題やエビデンスに基づく情報等から得られた基本的な事項について、栄養士養成校の学生を対象に、食育に関する意識調査を目的とした。セルフエスティームとの関連で、セルフエスティームが高いグループでは、バランスの良い食事をとっている人の割合、普段食事作りに参加している人の割合、郷土料理を作っている人の割合が高く、イライラを感じる人の割合が低かった。 共同発表者：森岡美帆、横地一花、清水玲那、中西透子、西嶋麻帆、平尾優香
6	コロナ禍での食生活状況に関する調査について	—	令和3年	第 68 回 日本栄養改善学会学術 総会（誌上開催）	短期大学生を対象にコロナ禍での食生活状況を調査した。調査方法は、新型コロナウイルスによる自粛期間の食生活に関する質問紙法による無記名方式で横断的調査を 2020 年 12 月に実施した。自粛生活では、生活リズムが乱れ、身体活動が減少する傾向があった。セルフエスティームを高めていくためにもバランスのとれた食事摂取の重要性を継続的に確認し、定期的に食生活を見直す必要があると考える。 共同発表者：森岡美帆、横地一花、田端真季、西本梨花
7	コロナ禍における動画を用いた栄養教育論実習授業内	—	令和4年	第 69 回 日本栄養改善学会学術	2021 年度栄養教育論実習の授業において、リーフレットと 3 分間の動画を作成し、コロナ禍の栄養教育にも対応できる

若林 一花

容の検討について			総会（誌上開催）	ように授業内容を検討したことについて報告した。 共同発表者：森岡美帆、 <u>若林一花</u> 、五木田祐里
パンフレット （小冊子）				
1	わかやまジビエオートムフェスタ 2015	平成27年9月	和歌山ジビエプロモーションチーム	和歌山県株式会社 JTB 西日本和歌山支店が主催する、わかやまのジビエを紹介する冊子に記載する栄養学的特徴などについての監修
2	わかやまジビエオートムフェスタ 2016	平成28年2月		
3	日本栄養士会雑誌	平成30年5月	日本栄養士会雑誌 第61巻5月号	世界に誇る日本各地の伝統食を都道府県別にリレー形式で紹介する、和歌山県の「てまえみそ」のコーナーを担当し、執筆を行った。 紀州「果実」自慢「かきまぶり」を紹介